

「味噌の復活は復興のシンボル」「今度は自分たちで考えていきたい」

(11月9日・総合的な学習)

C 中学校

自らが設定した「問い」を追究する楽しさを実感できる総合的な学習の授業づくりを目指します。教師主導ではなく、生徒の声や思いを大切に、授業を展開していきます。



【授業の様子から】

生徒たちと共に「キセキのみそ復活！プロジェクト」に取り組んでいるNPO「コラボ」の方々も参観し、生徒にアドバイスをいただきました。

【生徒の追究の様子】

イメージマップの書き込み

A 生

味噌作り見学・体験→キセキの味噌の魅力を調べる→大豆作りから味噌作りまでのことをまとめたパンフレットや動画を作成する→5 期生(後輩)に紹介する

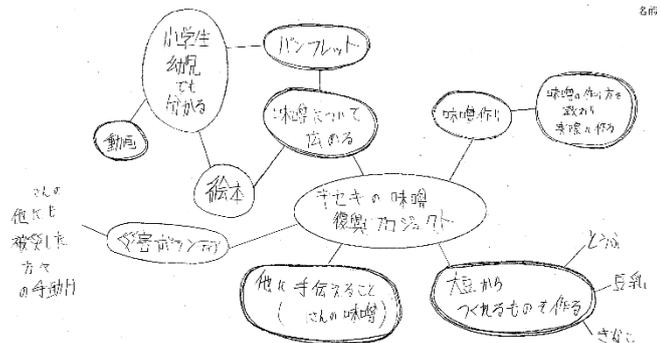
振り返り (学習カードより)

N 生：今までのプロジェクトの内容は先生が教えてくださっていたけど、これからは自分たちなので、気をひきしめていきたい。

R 生：ボランティアなどに参加するときに、行事としていくのではなく自分が何のために参加しているのか、何のためのボランティアなのかを考えたい。

M 生：味噌の復活は復興のシンボルになるだろうし、大豆で何か作って被災した方やOさんにふるまいたい。

【イメージマップの実際】



授業を終えての授業者の思い

OOさんと一緒に育てた大豆を使って「味噌をつくりたい」という生徒たちの強い思いを実感できたことが嬉しかったです。味噌を作ることは、「復興のシンボルにつながる」、「今まで活動を応援してくださったOさんやIさんへ感謝の気持ちを伝えられる」など、活動の意味まで考えられていた生徒たちの姿に感動しました。一つ一つの活動に、どのような意味があるのか、生徒に問い返しながら一緒に活動を考え、進めていきたいです。

11月7日の「第2回農業体験(大豆の収穫・脱穀、被災地の見学)」で学んだことや感じたことをグループの友達と共有しました。

共有の後、「キセキのみそ復活！プロジェクト」への活動は、予定だと農業体験までであることを伝えると、生徒たちからは「えーっ！」や「そうなの？」といった驚きやとまどいの声が上がりました。生徒たちの中に、プロジェクトに対して“思い”があり、それはまだ達成されていないことが確認できました。そこで、プロジェクトのまとめとして、「これからやってみたい、あるいはできそうな活動。を考えていくことになりました。

シンキングツールの「イメージマップ」をもとに、「自分たちで味噌を作る」、「大豆から、きなこや豆腐などを作る」、「味噌や大豆についての歴史や知識をもっと追究する」、「Oさんの作業を手伝う」、「プロジェクトを宣伝し、Oさんの味噌を知ってもらう」など、様々な角度から自由にアイデアを広げました。その後、「ピラミッドランキング」を用いて、時間やお金、関わってきた人々への感謝の気持ちなどの視点から、優先順位を考えながら実現可能なアイデアをグループで考えました。

参観していただいた皆様の声

- 関わった地域の方を招いての授業は素敵でした。
- 味噌について非常に興味・関心をもって取り組んでいることが、活動の様子から伝わってきました。
- 1時間の中で、2つシンキングツールを使って考えることは、時間的に難しかったようです。